

ベトナム戦争終結40周年



戦争の苦しみを背負いつつ、

力強く生きる人々の記録

WAR
KAMAU
MOTHER
AND
CHILD



枯死した大樹 1982年 茅野市美術館蔵

中村悟郎展

2015年4月18日(土) — 5月17日(日)

10:00 ~ 18:00 (4月18日は10:30から開展式を開催し、終了後に開場)

休館日：毎週火曜日(ただし火曜日が祝日の場合は、その直後の休みでない日) 観覧料：一般500円(300円) 高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金 ※障がい者手帳、療育手帳をお持ちの方と付添の方1名は無料。

主催：茅野市美術館

後援：長野県、長野県教育委員会、茅野市、茅野市教育委員会、岡谷市教育委員会、諏訪市教育委員会、下諏訪町教育委員会、富士見町教育委員会、原村教育委員会、諏訪教育会、信濃毎日新聞社、長野日報社、信州・市民新聞グループ(7紙)、長野朝日放送、FM長野、エルシーブイ株式会社、月刊ぶらざ、諏訪地方観光連盟、茅野商工会議所、信州諏訪農業協同組合

協力：NPO法人サポートC美遊com。

戦争の苦しみを背負いつつ、
力強く生きる人々の記録

中村 悟郎展

ベトナム戦争終結40周年

NAKAMURA Goro



1. 全滅したマンゴローブの森 1976年
 2. 生後10ヶ月のベトとドク 1981年
 3. 片腕を失ったジェニー 1982年
 4. 帰還兵の抗議デモが眼前を通った 1982年
 5. 太ももまで切断した趙吉成 1993年
 6. 機関銃手だった朴武庸 1993年
- すべて茅野市美術館蔵

地域にゆかりの深い作家を紹介してきた茅野市美術館では、このたび岡谷市出身の写真家・中村悟郎（なかむらごろう、1940-）の展覧会をベトナム戦争終結40周年である2015年に開催します。中村悟郎は1970年から現在に至るまでベトナム戦争を取材。およそ45年に渡り枯葉剤の人体被害を追い続け、その取材先はベトナムのみにとどまらず、アメリカや韓国の帰還兵、そしてその家族にまで及びます。

中村の作品は戦争の残酷さをはらみつつも美しく、力強く生き続ける人びとの姿をとらえています。最早過去のものとして忘れ去られかけている戦争の脅威を改めて感じるとともに、写真をツールとしたジャーナリズムと写真における美についてみつめます。

中村悟郎 Goro Nakamura

1940年北京生まれ、長野県岡谷市出身。1970年からベトナム戦争を取材。戦後、アメリカ、韓国でも枯葉剤被害を記録する。1996-2005年山梨大学教育人間科学部非常勤講師、1999-2004年岐阜大学地域科学部教授。2007年、ニューヨークで枯葉剤“ORANGE”展を開催、同展はマグナム（MAGNUM）創立60周年記念招待作品。現在、敬愛大学・地域総合研究所客員研究員、日本ジャーナリスト会議JCJ代表委員、現代写真研究所副所長、日本写真家協会会員。

主な受賞歴：第8回ニコン伊奈信男賞（1983）、JCJ特別賞（1995）、第1回日本科学技術ジャーナリスト会議特別賞（2003）

茅野市美術館

地域をみつめるプロジェクト《紡ぐ》

ベトナム戦争終結40周年 中村悟郎展 関連イベント

会場＝茅野市美術館 参加費＝無料（要観覧券チケット）

作家によるギャラリートーク

日時＝4月19日（日）14:00開始

話し手＝中村悟郎

講座「ベトナム戦争における写真の衝撃と美」

日時＝5月9日（土）14:00開始

講師＝中村悟郎

きてみて！ギャラリートゥアー

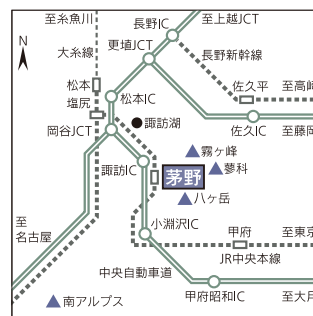
お話しをしながら、ガイドと一緒に展示作品をめぐる。

ガイド＝茅野市美術館サポーター、学芸員

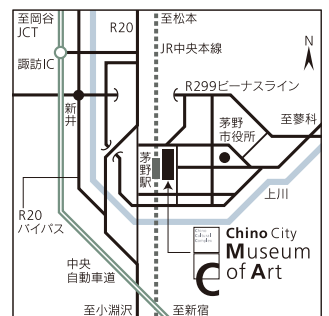
日時＝5月2日（土）14:00開始

学芸員による作品解説会

日時＝5月16日（土）14:00開始



中央自動車道・諏訪 ICより車で約12分



アクセス＝JR中央本線・茅野駅下車、東口直結

茅野市美術館

〒391-0002 長野県茅野市塚原一丁目1番1号 茅野市民館内
TEL.0266-82-8222 <http://www.chinoshiminkan.jp>